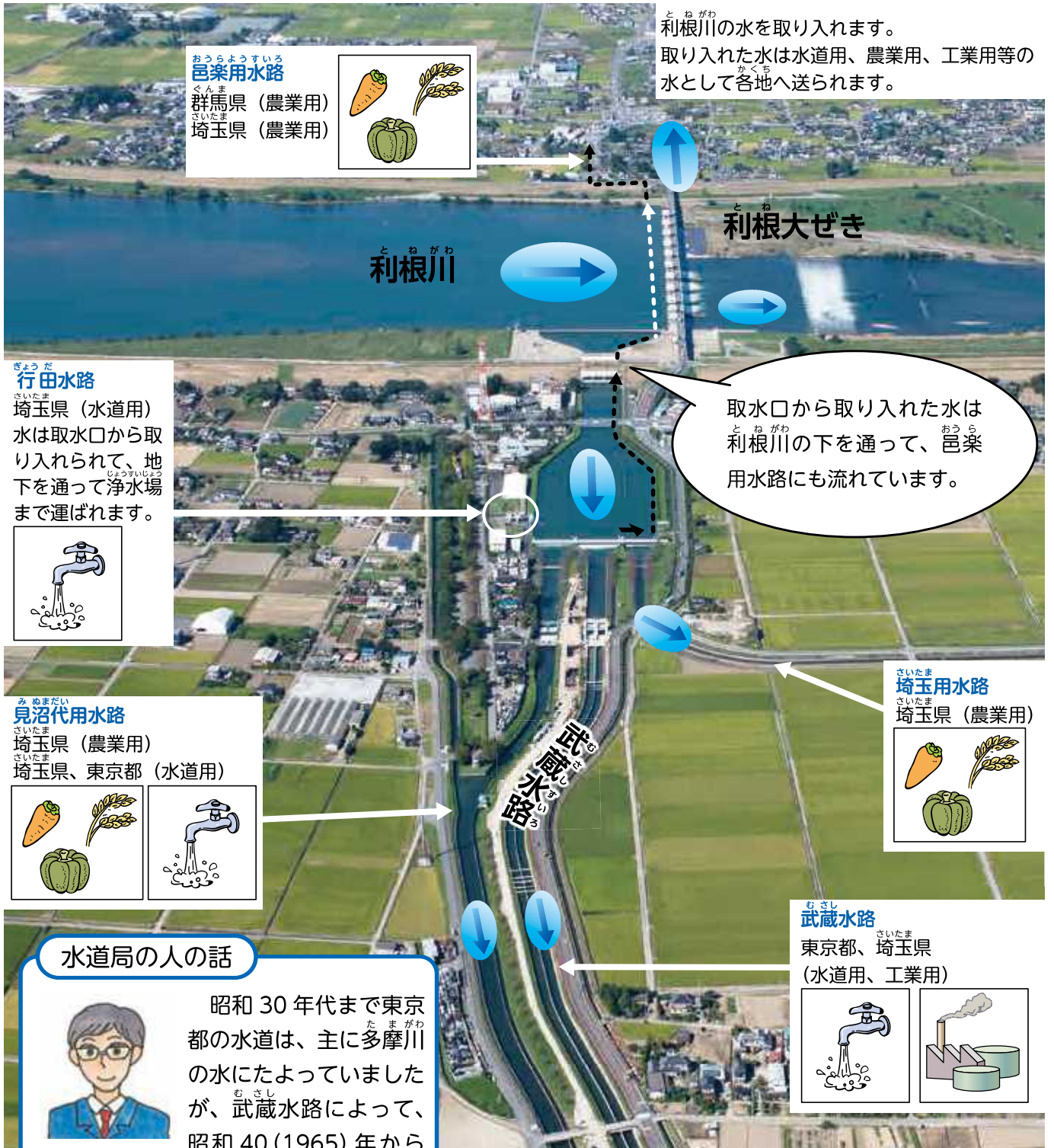


### (3) いつでも水をとどける

川の水や水道水をどのようにやり取りしているのでしょうか。

#### ● 利根大ぜき (13 ページ、15 ページ参照)



利根川の水を取り入れます。  
取り入れた水は水道用、農業用、工業用等の水として各地へ送られます。

**おうらようすいりょう 邑楽用水路**  
ぐんま 群馬県 (農業用)  
さいたま 埼玉県 (農業用)

**ぎょうだ 行田水路**  
さいたま 埼玉県 (水道用)  
水は取水口から取り入れられて、地下を通過して浄水場まで運ばれます。

**みさし 武蔵水路**  
さいたま 埼玉県 (農業用)  
さいたま 埼玉県、東京都 (水道用)

**さいたま 埼玉用水路**  
さいたま 埼玉県 (農業用)

**むさし 武蔵水路**  
さいたま 埼玉県 (水道用、工業用)

取水口から取り入れた水は利根川の下を通過して、邑楽用水路にも流れています。

**水道局の人の話**

昭和 30 年代まで東京都の水道は、主に多摩川の水にたよっていましたが、武蔵水路によって、昭和 40 (1965) 年から利根川の水も取り入れるようになりました。

今では、群馬県や埼玉県の山から流れる利根川の水を、東京都と群馬県や埼玉県などで分け合って使っています。

川の水は、生活で使う水道水だけでなく、農家の仕事や工場のためにも使われるんだね。



● 非常時の水道水のやり取り



水道局の人の話



まわりの県や市の水道管と東京都の水道管とが結ばれていて、地震などの非常時にどちらかの水が足りなくなった場合には、多いほうから水道水を送ることができます。

まわりの県や市との協力が、必要なんだね。



原水のやりとり

利根川の水が多いときには、その水を東村山浄水場に送ります。反対に利根川の水が少ないときには、多摩川の水を朝霞浄水場へ送ることができる仕組みになっています。これを原水連絡といいます。

◇原水…川の水

利根川と多摩川の連絡施設

